

特記仕様書

1. 業務の名称

2025 年日本国際博覧会 道路交通マネジメント検討等業務

2. 業務場所

大阪市 外

3. 業務の期間

契約締結日から令和 8 年 2 月 27 日（金）まで

4. 業務の目的

2025 年日本国際博覧会（以下、「万博」という。）の開催に向け、公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会（以下、「協会」という。）は、来場者輸送対策協議会（以下、「協議会」という。）を 2021 年 7 月に設置し、開催期間中における来場者の安全かつ円滑な輸送を実現するための具体的な方針として、2022 年 10 月には「大阪・関西万博 来場者輸送具体方針（アクションプラン）初版」を、2023 年 5 月には「同 第 2 版」を策定・公表しており、これをもとに関係機関、事業者等との調整を行っている。

本業務は、来場者の輸送手段の一つである道路について、既往の調査・検討の結果を踏まえ、万博時に設置する会場外駐車場・夢洲交通ターミナルの運用にかかる道路交通マネジメント及び働きかけ TDM の実施に必要な具体検討を行い、駐車場等の運用計画策定を行うとともに、開催期間中における周辺の交通量や会場外駐車場・夢洲交通ターミナルの運用状況等をもとに、運用計画や道路交通マネジメント、働きかけ TDM の検証を行い、改善案や実施結果のとりまとめを行うものである。

5. 実施方法

本業務の履行にあたっては、本特記仕様書によるほか、「土木設計業務共通仕様書（案）（国土交通省最新版）」（以下「共通仕様書」という。）（https://www.mlit.go.jp/tec/gyoumu_shiyou.html）及び「土木工事数量算出要領（案）（国土交通省最新版）」

（<http://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/sr/yoryo3104.htm>）を準用するものとする。以下、共通仕様書等に対する特記事項は次の通りとする。本業務の履行に際し、疑義の生じた場合は調査職員と協議しなければならない。

（1）管理技術者及び照査技術者

共通仕様書第1107条第3項に規定する管理技術者及び第1108条第2項に規定する照査技術者の資格において「技術士又はこれと同等の能力と経験を有する技術者」のこれと同等の能力と経験を有する技術者とは、「建設コンサルタント登録規程（昭和52年4月15日建設省告示第717号）により技術管理

者として国土交通大臣に認定された者「都市計画及び地方計画部門」をいう。

また、R C C Mの業務経験とは、その登録部門が「都市計画及び地方計画部門」であることをいう。

なお、管理技術者と照査技術者の兼任は認めない。

（２）照査の実施

本業務は照査技術者により照査を行うものとする。照査技術者は、共通仕様書第1108条第２項に規定しているように、照査計画を業務計画書に記載し、照査に関する事項を定めなければならない。

照査技術者は設計図書に定める又は調査職員の指示する業務の節目毎にその成果の確認を行うとともに照査結果を照査報告書として取りまとめ、照査技術者の責において署名押印の上、調査職員に提出しなければならない。また、照査報告にあたっては照査技術者自らが調査職員に説明しなければならない。

（３）諸手続

本業務に伴い必要となる官公署等への諸手続は、調査職員の承諾を得て、受注者の責任において速やかに行わなければならない。

（４）資料の貸与

「2025年日本国際博覧会 交通アクセス検討業務委託 報告書（2021年6月）」

「2025年日本国際博覧会 会場外駐車場等予備設計業務 報告書（2023年3月）」

※その他、協会が所有する本業務に必要な資料等は、調査職員と協議のうえ随時貸与するものとする。

6. 業務の内容

既往の調査・検討（交通量調査、来場者輸送需要検討、交通影響検討および会場外駐車場・夢洲交通ターミナルの配置計画検討等）の結果をもとに、協議会等での議論や本業務で実施する交通量調査等から把握した最新の交通状況を踏まえ、会場外駐車場および夢洲交通ターミナルの運用に必要な次の業務を行う。

（１）設計計画

業務の目的・主旨を把握し、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画書の作成し、調査職員に提出する。

（２）現地踏査

設計図書に示す項目に関して現地踏査を実施し、本業務における調査・検討に必要な現地条件の把握確認を行うとともに、交通量調査等の実施計画の作成を行う。

（３）交通量調査

運用検討時と開催期間中において交差点の交通量調査を行う。なお、既調査地点を調査する場合は、過去の調査結果との比較を行い、調査箇所については、調査職員と協議の上決定すること。

（４）交通影響検討にかかる解析

既往の検討及び大阪・関西万博来場者輸送具体方針をもとに、協議会において新たに検討が必要となった条件等を踏まえ、万博関連交通の起終点（OD）や交通量を整理し、交通量配分や交差点静的解析、ミクロ交通シミュレーションを実施し、開催期間中の道路交通マネジメントの検討のための基礎資料として交通影響検討資料をとりまとめる。

① 道路交通量配分

開催期間中（一般交通（センサスOD）＋万博交通）の道路交通量の推計を行う。

(ア) 配分モデルの作成・現況再現	・既往の交通量配分の実施手法を参考にモデル化及び現況再現を行う。 ・万博関連交通の経路の予測結果については、一般交通と万博交通（車種毎）を区分できること。
(イ) 道路交通量配分の実施	・前提条件（万博交通 OD、万博交通にかかる高速道路料金等）の設定、解析、出力（交通量図および必要箇所の数値データ等）

② 交差点静的解析（交差点容量計算・最適現示設定）

交差点容量について、（３）交通量調査で把握した最新の交通状況を踏まえた万博時の交通条件（時間別・方向別交通量、車線構成等）を用いて最適現示及び飽和度を算出する。

③ミクロ交通シミュレーション（会場外駐車場周辺等）

(ア) シミュレーションモデル（自動車）の設定	・既往のシミュレーションモデル（VISSIM）を元に、自動車のミクロ交通シミュレーションに必要な設定を行う。 ・対象箇所については別紙 1 - 1、2、3 を参照。 ・なお、異なる解析ソフトを用いることは妨げないが、新たに必要となるモデル等の作業については設計変更の対象としない。
(イ) ミクロ交通シミュレーション（自動車）の実施	・前提条件（交通量・信号現示等）の設定、解析、出力（動画及び静止画等）を行うこと。

④ミクロ交通シミュレーション（夢洲交通ターミナル）

(ア) シミュレーションモデル（自動車）の作成	・夢洲第 2 交通ターミナルにおいて、自動車のミクロ交通シミュレーションに必要なモデルを作成すること。対象箇所図については別紙 2 を参照。
(イ) シミュレーションモデル（歩行者）の作成	・夢洲第 2 交通ターミナル～入場ゲート（西）において、歩行者のミクロ交通シミュレーションに必要なモデルを作成すること。対象箇所図については別紙 2 を参照。
(ウ) ミクロ交通シミュレーション（自動車）の実施	・前提条件（交通量等）の設定、解析、出力（動画及び静止画等）を行うこと。
(エ) ミクロ交通シミュレーション（歩行者）の実施	・前提条件（通行量等）の設定、解析、出力（動画及び静止画等）を行うこと。

⑤交通影響検討資料のとりまとめ

交通影響検討にかかる解析結果をとりまとめる（大阪・関西万博来場者輸送具体方針の更新資料等）。

（５）会場外駐車場・夢洲交通ターミナルの運用に必要な道路交通マネジメントの検討

①退場時の混雑対策の検討

退場者が特定の時間に集中することによる混雑対策について、道路交通情報提供策や案内誘導方策を検討する。

②災害・事故時における対応の検討

災害、周辺道路の通行止め、駐車車両の事故等の事象発生時の来場者輸送に関する対応方針について、誘導のあり方や駐車車両の搬出移動等を検討する。

③高速道路等における迂回誘導対策の検討

来場者のアクセスにより混雑が見込まれる周辺の一般道の影響低減のための高速推奨出口への誘導対策や大阪中心部の高速道路混雑区間の迂回誘導対策について、対象交通量の整理を行い、対策実施時の効果をとりまとめる。

（６）会場外駐車場・夢洲交通ターミナル運用計画の策定

（５）の検討結果を踏まえ、周辺道路の交通負荷を抑えるために必要な時間別受入台数（予約枠）や、来場者数に応じた運用、災害事故時の運用等を検討し、運用計画としてとりまとめる。なお、施設内に配置する設備条件やパークアンドライドバスの運行計画と整合を図ること。また、運用計画の策定にあたり、調査職員と協議の上、「（４）交通影響検討にかかる解析」を実施し、計画の妥当性を確認すること。

（７）来場者輸送対策協議会等運営補助

国、地方自治体、交通事業者、協会等により構成されたる道路分野における来場者輸送等に関する協議会（道路部会、道路アクセス WG、駐車場対策協議会等）の運営補助業務（各種調査、会議資料の作成・印刷及び議事録の作成）を行う。

（８）道路交通マネジメントの効果検証、とりまとめ（開催期間中１回、開催期間終了後１回）

開催期間中における交通量や会場外駐車場・夢洲交通ターミナルの運用状況などの記録を整理すること。開催期間前半（2025 年 6 月末を想定）の時点において、道路交通マネジメント（働きかけ TDM の道路分野における取組みを含む）の効果検証を行い、その結果と改善案を取りまとめること。改善案の取りまとめにおいては、必要に応じて調査職員と協議の上、「（４）交通影響検討にかかる解析」を実施することとする。

また、開催期間終了後において、開催期間中を通した道路交通マネジメントの効果検証を行い、その結果を取りまとめるとともに、道路分野における来場者輸送について記録を作成すること。

（９）照査

各項目について、正確性、適切性及び整合性等に着目し、照査を行う。

(10) 報告書作成

各検討結果を整理し、各指定の期間までに報告書の取りまとめを行う。

(11) 打合せ（初回打ち合わせ、中間打ち合わせ、最終打ち合わせ）

打合せの実施に関して、別途、調査職員が必要と認めた場合は、その指示に従うこと。また中間打合せは、調査職員と協議の上、打合せ回数を変更できるものとする。なお、業務着手時又は業務計画書作成時及び業務完了時には原則として管理技術者が立会うものとする。受注者は打合せ時以外においても、作業進捗状況を随時報告し、調査職員の指示を受けなければならない。

7. 成果物及び提出期限等

① 工程目標

6.(4)-④については、別途実施する設計業務と連携し、令和6年2月29日（木）までに完了すること。

その他の業務内容については、適宜、調査職員と協議の上、進捗調整を図ること。

② 業務完了報告書

成果に至る参考資料の一切を含む業務完了報告書を取りまとめること。

成果物は、電子データを電子媒体（ＣＤ－Ｒ）で2部提出するとともに、その出力版（報告書は簡易製本、図面はA3縮小）についても2部提出する。なお、図面等において、A3縮小では、読み取り困難な際は、適宜、拡大版等を作成し提出するものとする。

8. 納入場所

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会 運営事務局交通部道路交通対策課

9. その他

(1) 各業務の想定数量は、別紙3「想定数量総括表」のとおりである。

(2) 6.(3) 交通量調査については、1)夢洲交通ターミナル・舞洲会場外駐車場周辺(別紙1-1参照)、2)尼崎会場外駐車場周辺(別紙1-2参照)、3)堺会場外駐車場周辺(別紙1-3参照)、4)広域アクセスに係る地点(別紙1-4参照)に位置する交差点を対象に、下表の内容での実施を想定している。

交通量調査/時間	内容
① 交差点自動車類/24 時間 (午前 6 時～翌午前 6 時まで)	時間帯別、方向別、6 車種区分（乗用車・バス・小型貨物車・普通貨物車・コンテナ車(トレーラーヘッド＋シャーシ)・コンテナ車(トレーラーヘッドのみ)）
② 交差点自動車類/14 時間 (午前 6 時～翌午前 6 時まで)	時間帯別、方向別、6 車種区分（乗用車・バス・小型貨物車・普通貨物車・コンテナ車(トレーラーヘッド＋シャーシ)・コンテナ車(トレーラーヘッドのみ)）
③ 交差点歩行者等/14 時間	時間帯別、方向別、2 分類（歩行者・自転車）

(午前 6 時～午後 8 時まで)	【自動車類交通量調査と同時実施】
④ 渋滞長/14 時間 (午前 6 時～午後 8 時まで)	時間帯別【自動車類交通量調査と同時実施】

- (3) 受注者は、作業に際し協議を行う関係諸官庁等と協調を保ち調査職員の指示を受けて正確かつ誠実に作業を行うこと。また、諸手続きに必要な資料を調整・準備すること。
- (4) 受注者は、作業中に生じた諸事故に対してその責任を負い、事故が発生したり、損害賠償の要求があったりしても、協会はその責任を負わないものとし、受注者において処理すること。
- (5) 協会からの入手資料や業務で作成した資料等、本業務により知り得た情報の一切は、本業務完了の時点を持って、返却すること。ただし、協会から許可を得た場合はこれに該当しない。
- (6) 本委託によって得られた情報については、管理を厳密に行い、業務中及び業務完了後に関わらず秘密の保持に万全を期すること。なお、受注者は協会の承認なく成果物（未完成の成果物及び業務を行う上で得られた記録等を含む。）を第三者に閲覧、貸与又は譲渡してはならない。
- (7) 作業が完了すれば、直ちに完成届と成果品を提出して本協会の検査を受けること。
- (8) 本業務の完了後、設計内容に「瑕疵」が発見された時は、協会の請求により受注者は速やかに自己の負担で補正すること。
- (9) 協会は本業務完了後においても疑義、不明箇所、その他設計監理上の質問等に対して、その都度協議を求めることができるものとし、受注者は誠意を持って協議に応じ、その質問等に答えること。
- (10) 受注者は、協会が提供する各種ガイドラインを遵守すること。